多機能型事業所の就労への取組について

公益財団法人　新宿区勤労者・仕事支援センター
福祉部　わーくすここ・から　サービス管理責任者　長峯彰子

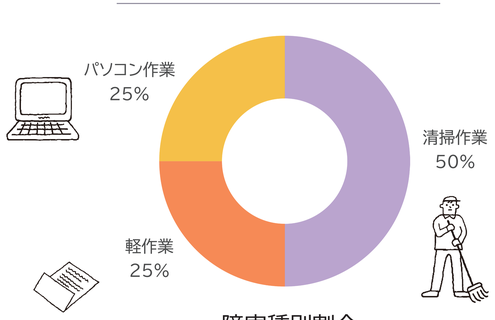
わーくす　ここ･からとは

『公益財団法人新宿区勤労者・仕事支援センター』が運営する指定障害福祉サービス事業所であり、**就労移行支援事業所**「エール」、**就労継続支援 B 型事業所**「スマイル」、**就労定着支援事業所**を併せ持っている多機能型事業所である。

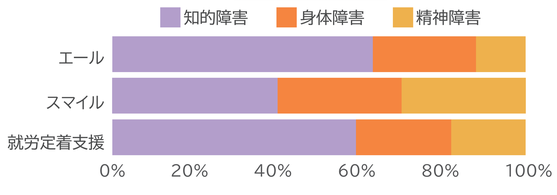
わーくす　ここ・からの概要

	就労移行支援事業所「エール」	就労継続支援 B 型事業所「スマイル」
目　的	状況や特性に応じた職業適性を見出し、職場探し等を行う	就労機会を提供すると共に、生産活動を通じて､その知識と能力の向上に必要な訓練などを実施すること
定　員	10 名	30 名
就労希望	全員希望	約 2 割が就労希望

エールにおける1日の作業割合



障害種別割合



成功事例

対象者

年　　齢：20 代
状　　況　・引きこもり期間が長く、保健センターからの紹介で通所に繋がった。
　　・障害受容ができておらず、手帳取得も悩んでいた。
　　・自分の病識をうつ病であると認識はある。
性　　格　・完璧主義
　　・自分の欠点やできない面が露呈すると、すべてが嫌になってしまう。

支援方法

目　　標：休まず通所すること。
就労希望：有り
経　　過：途中作業面や考え方の面で指摘を受けたり、不安要素が多くなってきたりすると休んでしまう事はあった。
解 決 策：指摘に関しては次にできた時の強化をすること、不安要素が大きくなった時は不安の根源が何なのかを職員と突き詰めること。
結　　果：休むことが減った。
備　　考：得意なことも探った。

支援結果

手帳を取得し、障碍者雇用で仕事をしていくことで気持ちが固まる。
アート的なことが得意な面や仕事に対してまじめに取り組む面なども評価が高かった。
就職先には得意な面が行かせるような職場を選定し、就職に結びつけた。
現　　在：何か要因があると休みがちになる面があるが、その都度職員が寄り添い支援していることで就労は継続できている。

一般的に言われている問題点

移行支援事業所の問題点	就労継続支援 B 型の就労への問題点
・移行実績の低い事業所が一定数存在していること ・アセスメントや支援の質が確保されていないこと ・一般就労への移行後に離職してしまう利用者が多いこと	・事業所のサービス内容と一般就労へのギャップがあること ・利用者のスキル不足

わーくす ここ・からの就労支援

実習前面談 → 10日間の実習

- 訓練内容がそぐわない場合 → その他の事業所を紹介
- 2 年で就職が可能である見込み → 移行支援事業所「エール」
- 就職まで時間がかかる見込み → 就労継続支援 B 型「スマイル」

→ 就職 → Support

就労後の支援

就労後 6 ヶ月
・利用者と企業双方に対する訪問や面談を実施している。
・就職後に生じる課題（人間関係、業務内容の理解不足など）を早期に発見し、解決策を共に考えることが可能となる。

定着支援
・就職後 6 か月を超えての支援が必要となれば、当事業所の定着支援事業所との契約を結び、その後 3 年の定着支援が可能になる。

卒業生の集い
・卒業後、就労を続けている人が参加できるイベント（年 4 回）。この集いの中で個々の現状把握が可能。

考察と分析

事業所として、就職者を輩出していくためには、本人の障害特性や作業面での把握の他、性格等も加味した支援が必要だと考えている。そして、就職した後も企業と就職者には支援が必要である。事業所はこういったことを細やかに行い、また、自分達の支援の手を離れる時は、次の支援の担い手に繋いでいくことが必要であろう。

参考文献
1）公益財団法人 新宿区勤労者・仕事支援センター 事業案内（令和 4 年 3 月）,p.1，p.7
2）精神障害者に対する就労支援家庭における当事者のニーズと行動の変化に応じた支援技術の開発に関する研究（調査研究報告 No.90）

【連絡先】長峯 彰子　公益財団法人　新宿区勤労者・仕事支援センター
わーくす ここ・から
e-mail：shoko.nagamine@sksc.or.jp